

日本特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

JCG72 U.S. PTO
09/782706
02/13/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2000年 6月22日

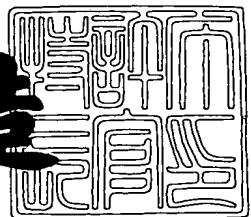
出願番号
Application Number: 特願2000-187128

出願人
Applicant(s): ミノルタ株式会社

2001年 1月12日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3111828

【書類名】 特許願

【整理番号】 TL03451

【提出日】 平成12年 6月22日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H04N 05/335

【発明の名称】 固体撮像装置

【請求項の数】 6

【発明者】

【住所又は居所】 大阪市中央区安土町二丁目3番13号 大阪国際ビル
ミノルタ株式会社内

【氏名】 萩原 義雄

【特許出願人】

【識別番号】 000006079

【氏名又は名称】 ミノルタ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100085501

【弁理士】

【氏名又は名称】 佐野 静夫

【代理人】

【識別番号】 100111811

【弁理士】

【氏名又は名称】 山田 茂樹

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 024969

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

特2000-187128

【包括委任状番号】 9716119

【包括委任状番号】 0000030

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 固体撮像装置

【特許請求の範囲】

【請求項1】 感光素子を有するとともに該感光素子に入射される光量に応じて自然対数的に変換した電気信号を発生する複数の画素と、特定の波長の光を通過させて前記感光素子に入射させる複数種類のフィルタとを有し、前記画素に前記フィルタを通過して入射される光に応じた複数種類の色信号を出力する固体撮像装置において、

予め、ホワイトバランス調整が施されたときの入射光の輝度と信号レベルにおける各色信号同士の相関関係を設定し、

撮像される被写体より入射される光の色温度を検出するとともに、この検出された色温度に応じて前記色信号の信号レベルを変化させることによって、予め設定された前記相関関係を保持させた前記複数種類の色信号を出力することでホワイトバランス調整を行うことを特徴とする固体撮像装置。

【請求項2】 感光素子を有するとともに該感光素子に入射される光量に応じて自然対数的に変換した電気信号を発生する複数の画素と、特定の波長の光を通過させて前記感光素子に入射させる複数種類のフィルタとを有し、前記画素に前記フィルタを通過して入射される光に応じた複数種類の色信号を出力する固体撮像装置において、

ホワイトバランス調整が施されたときの入射光の輝度と信号レベルにおける各色信号との相関関係を、複数種類の色信号それぞれについて予め設定する初期状態設定部と、

前記初期状態設定部より与えられる前記複数種類の色信号のうち1種類の色信号を基準信号とするとともに、該基準信号の信号レベルを検出する基準レベル検出部と、

前記初期状態設定部より与えられる前記基準信号以外の他の色信号の信号レベルをそれぞれ検出する複数の信号レベル検出部と、

前記各信号レベル検出部で検出された信号レベルを、それぞれ、前記基準レベル検出部で検出された信号レベルと比較して、撮像された被写体の色温度を検出

する色温度検出部と、

色温度検出部で検出された色温度に基づいたオフセットレベルを、前記他の色信号それぞれの信号レベルに加えることによって、ホワイトバランス調整を行うホワイトバランス調整部と、

を有することを特徴とする固体撮像装置。

【請求項3】 前記ホワイトバランス調整部において、前記他の色信号レベルと前記基準信号との信号レベルの差に基づいて、前記他の色信号に与えるオフセットレベルを決定することを特徴とする請求項2に記載の固体撮像装置。

【請求項4】 前記初期状態設定部において、各色信号との相関関係を設定する際、前記各色信号の信号レベルに初期オフセットレベルを加えることによってホワイトバランス調整を行うことを特徴とする請求項2又は請求項3に記載の固体撮像装置。

【請求項5】 前記基準レベル検出部及び前記信号レベル検出部において、複数の画素からの色信号の信号レベルを積分することを特徴とする請求項2～請求項4のいずれかに記載の固体撮像装置。

【請求項6】 前記基準レベル検出部及び前記信号レベル検出部において、複数フィールド分の色信号の信号レベルを積分することを特徴とする請求項2～請求項5のいずれかに記載の固体撮像装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、入射光量に対して自然対数的に変換した電気信号を出力する固体撮像素子を有する固体撮像装置に関するもので、特に、固体撮像素子より出力される電気信号を信号処理してホワイトバランス調整を行う固体撮像装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

本出願人は、ダイナミックレンジを広くするために、入射した光量に応じた光电流を発生しうる感光手段と、光电流を入力するMOSトランジスタと、このMOSトランジスタをサブスレッショルド電流が流れうる状態にバイアスするバイ

アス手段とが備えられることによって、入射光量に対して自然対数的に変換された電気信号を出力することができる固体撮像装置について検討している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

このような固体撮像装置で撮像を行ったとき、固体撮像装置より出力される電気信号は、温度成分が含まれた信号となるため、固体撮像装置内の雰囲気温度に影響された信号となる。又、撮像される被写体の色温度が変化することにより被写体のスペクトルの波長が変化するため、RGBフィルタを通して得られる色信号であるR(Red)信号、G(Green)信号、B(Blue)信号の出力が、被写体のおかれている環境下によって変化する。このため、R、G、B信号のそれぞれの出力レベルが最も大きくなる白色の被写体を撮像したとき、その被写体のおかれる環境下によっては、撮像されて得たR信号、G信号、B信号を用いて再生した際、再生された画像が白色とならない場合がある。

【0004】

このような問題を鑑みて、本発明は、入射光に対して対数変換された電気信号を出力する固体撮像装置において、それぞれの色信号のレベルを検出するとともに相対的に比較を行い、この比較結果に応じて各色信号のレベルを変化させることによってホワイトバランス調整を行う固体撮像装置を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するために、請求項1に記載の固体撮像装置は、感光素子を有するとともに該感光素子に入射される光量に応じて自然対数的に変換した電気信号を発生する複数の画素と、特定の波長の光を通過させて前記感光素子に入射させる複数種類のフィルタとを有し、前記画素に前記フィルタを通過して入射される光に応じた複数種類の色信号を出力する固体撮像装置において、予め、ホワイトバランス調整が施されたときの入射光の輝度と信号レベルにおける各色信号同士の相関関係を設定し、撮像される被写体より入射される光の色温度を検出するとともに、この検出された色温度に応じて前記色信号の信号レベルを変化させ

ることによって、予め設定された前記相関関係を保持させた前記複数種類の色信号を出力することでホワイトバランス調整を行うことを特徴とする。

【0006】

このような固体撮像装置によると、各色信号に与えるオフセット電圧を変化させることによって、ホワイトバランス調整を行い、このとき各色信号に与えたオフセット電圧を記憶させる初期設定動作を行って、各色信号の相関関係を設定する。そして、実際に撮像を行ったとき、この初期設定された各色信号の信号レベルを比較することによって、撮像している被写体の色温度を検出し、この色温度に基づいて、初期設定された各色信号にオフセット電圧を与える。このように色温度に応じたオフセット電圧を与えて、各色信号の相関関係を初期設定時の関係に保持させることによって、ホワイトバランス調整が施された各色信号を出力することができる。

【0007】

又、請求項2に記載の固体撮像装置は、感光素子を有するとともに該感光素子に入射される光量に応じて自然対数的に変換した電気信号を発生する複数の画素と、特定の波長の光を通過させて前記感光素子に入射させる複数種類のフィルタとを有し、前記画素に前記フィルタを通過して入射される光に応じた複数種類の色信号を出力する固体撮像装置において、ホワイトバランス調整が施されたときの入射光の輝度と信号レベルにおける各色信号との相関関係を、複数種類の色信号それについて予め設定する初期状態設定部と、前記初期状態設定部より与えられる前記複数種類の色信号のうち1種類の色信号を基準信号とするとともに、該基準信号の信号レベルを検出する基準レベル検出部と、前記初期状態設定部より与えられる前記基準信号以外の他の色信号の信号レベルをそれぞれ検出する複数の信号レベル検出部と、前記各信号レベル検出部で検出された信号レベルを、それぞれ、前記基準レベル検出部で検出された信号レベルと比較して、撮像された被写体の色温度を検出する色温度検出部と、色温度検出部で検出された色温度に基づいたオフセットレベルを、前記他の色信号それぞれの信号レベルに加えることによって、ホワイトバランス調整を行うホワイトバランス調整部と、を有することを特徴とする。

【0008】

このような固体撮像装置によると、まず、初期状態設定部において、各色信号に与えるオフセット電圧を変化させることによって、ホワイトバランス調整を行い、このとき各色信号に与えたオフセット電圧を記憶させる初期設定動作を行って、各色信号の相関関係を設定する。そして、実際に撮像を行ったとき、この初期状態設定部で初期設定された各色信号の信号レベルが、基準信号となる色信号については基準レベル検出部において、又、他の色信号については各信号レベル検出部において、検出される。次に、信号レベル検出部で検出された信号レベルを、それぞれ、色温度検出部において、基準レベル検出部で検出された信号レベルと比較することによって、撮像している被写体の色温度を検出する。そして、ホワイトバランス調整部において、この検出した色温度に基づいて、初期設定された各色信号にオフセット電圧を与えて、各色信号の相関関係を初期設定時の関係に保持させることによって、ホワイトバランス調整が施された各色信号を出力することができる。

【0009】

又、このような固体撮像装置において、請求項3に記載するように、前記ホワイトバランス調整部において、前記他の色信号レベルと前記基準信号との信号レベルの差に基づいて、前記他の色信号に与えるオフセットレベルが決定される。又、請求項4に記載するように、前記初期状態設定部において、各色信号との相関関係を設定する際、前記各色信号の信号レベルに初期オフセットレベルを加えることによってホワイトバランス調整を行うことで、初期設定が行われる。

【0010】

このような固体撮像装置において、請求項5に記載するように、前記基準レベル検出部及び前記信号レベル検出部において、複数の画素からの色信号の信号レベルを積分するようにしても構わない。即ち、固体撮像装置に設けられた全ての画素から出力される色信号を用いてホワイトバランス調整を行うのではなく、任意の画素から出力される色信号を用いてホワイトバランス調整を行うようにしても構わない。更に、請求項6に記載するように、前記基準レベル検出部及び前記信号レベル検出部において、複数フィールド分の色信号の信号レベルを積分するよ

うにしても構わない。即ち、数フィールド分撮像したときに一度ホワイトバランス調整を行うようにしても構わない。

【0011】

【発明の実施の形態】

本発明の実施形態について、図面を参照して説明する。図1は、本実施形態の固体撮像装置の内部構成を示すブロック図である。図2は、図1の固体撮像装置のセンサ部の内部構成を示すブロック図である。図3は、図2のセンサ部に設けられたバッファの内部構成を示す回路図である。

【0012】

図1に示す固体撮像装置は、入射光に対して対数変換された電気信号を出力するセンサ部1と、センサ部1より与えられた電気信号をデジタル信号に変換するアナログ／デジタル（A／D）変換回路2と、A／D変換回路2より与えられるデジタル信号よりR信号、G信号、B信号を選択して出力するRGB選択回路3と、RGB選択回路3より与えられるR信号、G信号、B信号の各色信号にオフセット電圧を与えることによってホワイトバランス調整を行ってR信号、G信号、B信号の初期設定を行う初期状態設定回路4と、初期状態設定回路4より与えられるR信号、G信号、B信号によってセンサ部1が撮像した被写体の色温度を検出する色温度検出回路5と、初期状態設定回路4より与えられるR信号、G信号、B信号に色温度検出回路5で検出した色温度に基づいてオフセット電圧を与えることによってホワイトバランス調整を行うホワイトバランス調整回路6とを有する。

【0013】

(1) センサ部の構成

まず、このように構成された固体撮像装置のセンサ部1の構成を以下に説明する。図2のセンサ部1は、フォトダイオードなどの感光素子を有する画素G₁₁～G_{m n}と、画素G₁₁～G_{m n}の各列毎にその出力側に接続された信号線11～1～1～1～mと、信号線11～1～1～1～mのそれぞれに接続された定電流源12～1～12～mと、画素G₁₁～G_{m n}に後述するパルス信号φVを与えることによって行毎に信号線11～1～1～1～mに出力信号を出力させる垂直走査回路15と、

バッファ $13a-1 \sim 13a-m$, $13b-1 \sim 13b-m$ に後述するパルス信号 ϕP を与えることによって画素毎に出力信号を出力回路14に送出させる水平走査回路16とを有する。即ち、画素 G_{ab} ($a : 1 \leq a \leq m$ の自然数, $b : 1 \leq b \leq n$ の自然数) からの出力が、それぞれ、信号線 $11-a$ を介して出力されるとともに、この信号線 $11-a$ に接続された定電流源 $12-a$ によって増幅される。

【0014】

又、信号線 $11-1 \sim 11-m$ のそれぞれに、スイッチ $S1-1 \sim S1-m$ 及びスイッチ $S2-1 \sim S2-m$ が接続される。そして、スイッチ $S1-1 \sim S1-m$ を介して、信号線 $11-1 \sim 11-m$ からの映像信号が、それぞれ、キャパシタ $C1-1 \sim C1-m$ に与えられる。又、スイッチ $S2-1 \sim S2-m$ を介して、信号線 $11-1 \sim 11-m$ からのノイズ信号が、それぞれ、キャパシタ $C2-1 \sim C2-m$ に与えられる。キャパシタ $C1-1 \sim C1-m$ に与えられてサンプルホールドされた映像信号は、それぞれ、バッファ $13a-1 \sim 13a-m$ を介して、出力回路14に与えられる。又、キャパシタ $C2-1 \sim C2-m$ に与えられてサンプルホールドされたノイズ信号は、それぞれ、バッファ $13b-1 \sim 13b-m$ を介して、出力回路14に与えられる。

【0015】

このように構成されるセンサ部1において、図示していないが、画素 $G_{11} \sim G_{mn}$ の各画素の光電変換部分に赤色、緑色、青色の3原色のカラーフィルタが設けられる。このように赤色、緑色、青色のカラーフィルタが設けられた画素から、それぞれ、R信号、G信号、B信号が出力される。又、一般的には、赤色のカラーフィルタが設けられた1つの画素、青色のカラーフィルタが設けられた1つの画素、緑色のカラーフィルタが設けられた2つの画素を1組とした構成とされる。尚、本実施形態ではそれぞれのカラーフィルタが設けられた3つの画素を1組とした構成であるものとして説明する。

【0016】

(1-1) バッファの構成

バッファ $13a-1 \sim 13a-m$ 及びバッファ $13b-1 \sim 13b-m$ は、図

3のように、MOSトランジスタで構成される。即ち、バッファ13（図1のバッファ13a-1～13a-m, 13b-1～13b-mに相当する）は、スイッチS（図2のスイッチS1-1～S1-m, S2-1～S2-mに相当する）とキャパシタC（図2のキャパシタC1-1～C1-m, C2-1～C2-mに相当する）との接続ノードにゲートが接続されたNチャネルのMOSトランジスタQ1と、MOSトランジスタQ1のソースにドレインが接続されたNチャネルのMOSトランジスタQ2と、MOSトランジスタQ2のソースにドレインが接続されたNチャネルのMOSトランジスタQ3とで構成される。

【0017】

そして、MOSトランジスタQ1のドレインには、直流電圧VDDが印加される。更に、MOSトランジスタQ2のゲートにパルス信号φPが与えられて、MOSトランジスタQ2がスイッチとして動作する。MOSトランジスタQ3のゲートには直流電圧が印加されるとともに、ソースに直流電圧VSSが印加されて、MOSトランジスタQ3が定電流源として動作する。又、MOSトランジスタQ2のソースとMOSトランジスタQ3のドレインとの接続ノードが、バッファ13の出力となる。

【0018】

(1-2) 出力回路の構成

又、出力回路14は、図4のように、キャパシタC1-1～C1-mでサンプルホールドされた映像信号がバッファ13a-1～13a-mを介して順番に与えられる温度補正回路20aと、キャパシタC2-1～C2-mでサンプルホールドされたノイズ信号がバッファ13b-1～13b-mを介して順番に与えられる温度補正回路20bと、温度補正回路20aで温度補正された映像信号が非反転入力端子に入力されるとともに温度補正回路20bで温度補正されたノイズ信号が反転入力端子に入力される差動增幅回路21とから構成される。尚、温度信号が反転入力端子に入力される差動增幅回路21とから構成される。尚、温度補正回路20a, 20bで温度補正するために基準となる温度は、固体撮像装置内部の雰囲気温度のことである。

【0019】

このように構成される出力回路14において、温度補正回路20a, 20bが

、図5のような非反転増幅回路で構成される。即ち、一端に直流電圧VSSが印加される抵抗R1と、抵抗R1の他端に一端が接続された抵抗R2と、抵抗R1、R2の接続ノードに反転入力端子が接続されるとともに非反転入力端子に映像信号又はノイズ信号が与えられる差動増幅回路22とで構成される。そして、抵抗R2の他端が差動増幅回路22の出力端子に接続される。

【0020】

このように温度補正回路20a、20bを反転増幅回路で構成するとき、抵抗R1、R2の少なくともいずれか一方を感温抵抗とすることによって、非反転増幅回路の利得を雰囲気温度に反比例させた値にすることができる。よって、温度補正回路20a、20bにおいて、映像信号及びノイズ信号に、雰囲気温度に対して反比例させた値を乗算することで、温度補正を行うことができる。

【0021】

更に、温度補正回路20a、20bにおいて温度補正された映像信号及びノイズ信号がそれぞれ、差動増幅回路21の非反転入力端子及び反転入力端子に与えられることによって、差動増幅回路21よりノイズ成分が減算された映像信号を出力することができる。このようにして、画素の感度バラツキなどによって発生するノイズ成分が除去された映像信号が出力回路14より出力される。

【0022】

(1-3) 画素の構成

図2の構成のエリアセンサ内に設けられた画素の構成を図6に示す。図6の画素において、カソードに直流電圧VPDが印加されたフォトダイオードPDのアノードにMOSトランジスタT4のドレインが接続されるとともに、MOSトランジスタT4のソースにMOSトランジスタT1のゲート及びドレインとMOSトランジスタT2のゲートが接続される。又、MOSトランジスタT2のソースには、MOSトランジスタT3のドレインが接続され、MOSトランジスタT3のドレインが信号線11（図2の信号線11-1～11-mに相当する）に接続される。尚、MOSトランジスタT1～T4は、そのバックゲートが接地されたNチャネルのMOSトランジスタである。

【0023】

MOSトランジスタT1のソースには信号 ϕ VPSが入力され、MOSトランジスタT3のゲートには ϕ Vが入力される。又、MOSトランジスタT4のゲートに信号 ϕ Sが入力され、MOSトランジスタT2のドレインに直流電圧VPDが印加される。このように構成された画素において、MOSトランジスタT3及び信号線11を介して、一端に直流電圧VPSが印加された定電流源12（図2の定電流源12-1～12-mに相当する）が、MOSトランジスタT2のソースに接続される。よって、MOSトランジスタT3がONのとき、MOSトランジスタT2はソースフォロワのMOSトランジスタとして動作し、定電流源12によって増幅された信号を信号線11に出力する。

【0024】

このような構成の画素による撮像動作及び感度バラツキ検出動作について、以下に説明する。尚、信号 ϕ VPSは2値の電圧信号で、MOSトランジスタT1をサブスレッショルド領域で動作させるための電圧をハイレベルとし、この電圧よりも低くMOSトランジスタT1にハイレベルの信号 ϕ VPSを与えた時よりも大きい電流が流れうるようにする電圧をローレベルとする。

【0025】

1. 撮像動作（映像信号出力時）

まず、図6のような画素が撮像を行うときの動作を説明する。尚、信号 ϕ Sは撮像動作の間、常にハイレベルであり、MOSトランジスタT4がONの状態である。そして、MOSトランジスタT1がサブスレッショルド領域で動作するよう、MOSトランジスタT1のソースに与える信号 ϕ VPSをハイレベルとする。このとき、フォトダイオードPDに光が入射されると、光電流が発生し、MOSトランジスタのサブスレッショルド特性により、MOSトランジスタT1、T2のゲートに光電流を自然対数的に変換した値の電圧が発生する。

【0026】

そして、MOSトランジスタT3にパルス信号 ϕ Vを与えることによって、MOSトランジスタT2は、そのゲート電圧に応じてソース電流を、MOSトランジスタT3を介して信号線11に出力電流として出力する。このとき、MOSトランジスタT2がソースフォロワ型のMOSトランジスタとして動作するため、

信号線11には映像信号が電圧信号として現れる。その後、信号 ϕV をローレベルにしてMOSトランジスタT3をOFFにする。このように、MOSトランジスタT2, T3を介して出力される映像信号は、MOSトランジスタT2のゲート電圧に比例した値となるため、フォトダイオードPDへの入射光量が自然対数的に変換された信号となる。

【0027】

2. 感度バラツキ検出動作（ノイズ信号出力時）

次に、画素の感度バラツキを検出するときの動作について、図7のタイミングチャートを参照して説明する。まず、パルス信号 ϕV が与えられて映像信号が出力された後、信号 ϕS をローレベルにしてMOSトランジスタT4をOFFにして、リセット動作が始まる。このとき、MOSトランジスタT1のソース側より負の電荷が流れ込み、MOSトランジスタT1のゲート及びドレイン、そしてMOSトランジスタT2のゲートに蓄積された正の電荷が再結合され、ある程度まで、MOSトランジスタT1のゲート及びドレインのポテンシャルが下がる。

【0028】

しかし、MOSトランジスタT1のゲート及びドレインのポテンシャルがある値まで下がると、そのリセット速度が遅くなる。特に、明るい被写体が急に暗くなった場合にこの傾向が顕著となる。よって、次に、MOSトランジスタT1のソースに与える信号 ϕVPS をローレベルにする。このように、MOSトランジスタT1のソース電圧を低くすることで、MOSトランジスタT1のソース側から流入する負の電荷の量が増加し、MOSトランジスタT1のゲート及びドレイン、そしてMOSトランジスタT2のゲートに蓄積された正の電荷が速やかに再結合される。

【0029】

よって、MOSトランジスタT1のゲート及びドレインのポテンシャルが、更に低くなる。そして、MOSトランジスタT1のソースに与える信号 ϕVPS をハイレベルにすることによって、MOSトランジスタT1のポテンシャル状態を基の状態に戻す。このように、MOSトランジスタT1のポテンシャルの状態を基の状態にリセットした後、パルス信号 ϕV をMOSトランジスタT3のゲートに

与えてMOSトランジスタT3をONにすることによって、MOSトランジスタT1, T2の特性のバラツキに起因する各画素の感度のバラツキを表す出力電流が信号線11に出力される。

【0030】

このとき、MOSトランジスタT2がソースフォロワ型のMOSトランジスタとして動作するため、信号線11にはノイズ信号が電圧信号として現れる。その後、信号 ϕV をローレベルにしてMOSトランジスタT3をOFFにした後、信号 ϕS をハイレベルにしてMOSトランジスタT4を導通させて撮像動作が行える状態にする。

【0031】

(1-4) センサ部の動作

このような構成のエリアセンサにおいて、図8に示すタイミングチャートに基づいて動作を説明する。まず、垂直走査回路15より画素G1k~Gmk (k : 1 ≤ k ≤ n の自然数) にパルス信号 ϕV が与えられて、画素G1k~Gmkより信号線11-1~11-mに映像信号が出力されると、スイッチS1-1~S1-mがONとされて、キャパシタC1-1~C1-mに出力された映像信号がサンプルホールドされる。このとき、スイッチS2-1~S2-m及びバッファ13a-1~13a-m, 13b-1~13b-m内のMOSトランジスタQ2は、OFFである。このように、映像信号がキャパシタC1-1~C1-mにサンプルホールドされると、スイッチS1-1~S1-mをOFFにする。

【0032】

次に、再び垂直走査回路15より画素G1k~Gmkにパルス信号 ϕV が与えられて、画素G1k~Gmkより信号線11-1~11-mにノイズ信号が出力されると、スイッチS2-1~S2-mがONとされて、キャパシタC2-1~C2-mに出力されたノイズ信号がサンプルホールドされる。このとき、スイッチS1-1~S1-m及びバッファ13a-1~13a-m, 13b-1~13b-m内のMOSトランジスタQ2は、OFFである。このように、ノイズ信号がキャパシタC2-1~C2-mにサンプルホールドされると、スイッチS2-1~S2-mをOFFにする。

【0033】

そして、キャパシタC1-1～C1-mに画素G1k～Gmkからの映像信号が、キャパシタC2-1～C2-mに画素G1k～Gmkからのノイズ信号が、それぞれサンプルホールドされると、水平走査回路16よりバッファ13a-1, 13b-1内のMOSトランジスタQ2のゲートにパルス信号φPが与えられて、MOSトランジスタQ2をONにする。よって、出力回路14に、画素G1kからの映像信号及びノイズ信号が与えられて、その出力に映像信号がノイズ信号に基づいて、感度のバラツキによるノイズ成分が補正されて出力される。そして、次に、水平走査回路16よりバッファ13a-2, 13b-2内のMOSトランジスタQ2のゲートにパルス信号φPが与えられて、MOSトランジスタQ2をONにして、出力回路14より画素G2kの感度のバラツキによるノイズ成分が補正された映像信号が出力される。

【0034】

同様に、水平走査回路16より、バッファ13a-3～13a-m, 13b-3～13b-m内のMOSトランジスタQ2のゲートに、パルス信号φPが順次与えられることによって、感度のバラツキ補正が施された画素G3k～Gmkからの映像信号及びノイズ信号が、出力回路14より出力される。そして、画素G1k～Gmkの映像信号が補正されて、順次、出力回路4より出力されると、次に画素G1(k+1)～Gm(k+1)の映像信号が同様に、順次、出力回路4より出力される。

【0035】

(2) センサ部以外の部分の構成

次に、RGB選択回路3、初期状態設定回路4、色温度検出回路5及びホワイトバランス調整回路6の構成について、以下に図9を参照して説明する。図9は、RGB選択回路3、初期状態設定回路4、色温度検出回路5及びホワイトバランス調整回路6の内部構成を示すブロック図である。

【0036】

図9に示すように、RGB選択回路3がセレクタ31, 32, 33で構成され、初期状態設定回路4がオフセット変更回路41, 42, 43で構成され、色温度検出回路5が積分回路51, 52, 53と比較回路54, 55で構成され、ホ

ワイトバランス調整回路6がオフセット変更回路61, 62で構成される。このように構成されるRGB選択回路3、初期状態設定回路4、色温度検出回路5及びホワイトバランス調整回路6の接続関係を以下に説明する。

【0037】

RGB選択回路3に設けられたセレクタ31, 32, 33には、A/D変換回路2でデジタル変換されたR信号、G信号及びB信号となる映像信号が入力される。又、このセレクタ31, 32, 33は、A/D変換回路2より出力されるR信号、G信号及びB信号に同期したクロックが与えられ、R信号、G信号、B信号をそれぞれ選択して出力する。このようにセレクタ31, 32, 33のそれぞれより選択出力されたR信号、G信号及びB信号は、それぞれ、初期状態設定回路4に送出される。

【0038】

又、初期状態設定回路4において、R信号、G信号及びB信号のそれぞれが入力されるオフセット変更回路41, 42, 43で、R信号、G信号及びB信号のそれぞれに与えるオフセット電圧の値が変更される。即ち、固体撮像装置の撮影開始時や生産時などにおいて、センサ部1からA/D変換回路2を介して与えられる映像信号よりRGB選択回路3で選択出力し、そして、この選択出力されたR信号、G信号及びB信号のそれぞれに与えるオフセット電圧の値をこのオフセット変更回路41, 42, 43で変更することによって、ホワイトバランス調整を行う。

【0039】

例えば、固体撮像装置の撮影開始時や生産時などに初期設定を行う際、センサ部1で撮像された被写体の色温度が3200Kとなるときに、R信号、G信号及びB信号が図10のような関係になったとする。尚、図10はR信号、G信号及びB信号それぞれについて、照度と信号レベルの関係を示すグラフで、照度が対数関数となる片対数グラフである。又、R信号、G信号及びB信号は、それぞれ、出力回路14(図2)で温度補正が行われるため、図10のように、その傾きが等しくなる。しかしながら、カラーフィルタのフィルタ特性などによって、同一の照度においてもその出力信号の信号レベルが異なる。

【0040】

そして、各信号の同一の照度における信号レベルの差が、R信号とG信号の間で ΔV_1 ($\Delta V_1 \geq 0$)、G信号とB信号の間で ΔV_2 ($\Delta V_2 \geq 0$) とすると、オフセット変更回路41, 42, 43を動作させて、R信号、G信号及びB信号のそれぞれに与えるオフセット電圧の値を、例えば、 $V + \Delta V_1$ 、 V 、 $V - \Delta V_2$ とする。このようにすることで、図10のように、R信号、G信号及びB信号が図10のグラフにおいて、その照度と信号レベルの関係が同一直線上となるようになる。

【0041】

尚、実際には、固体撮像装置の撮影開始時や生産時などにおいてホワイトバランス調整を行う際、R信号、G信号及びB信号の信号レベルがそれぞれ最大となる白色の被写体を撮像して、その再生画像が白色に映るようにオフセット変更回路41, 42, 43を動作させて、R信号、G信号及びB信号のそれぞれに与えるオフセット電圧の値を調整する。よって、オフセット電圧の値を調整してホワイトバランス調整を行ったとき、図10のように各信号の照度と信号レベルの関係が同一直線上となるとは限らないが、オフセット変更回路41, 42, 43において、このようにしてオフセット電圧の値が調整された状態が保持される。このオフセット変更回路41, 42, 43でオフセット電圧が与えられたR信号、G信号及びB信号が、色温度検出回路5及びホワイトバランス調整回路6に送出される。

【0042】

色温度検出回路5に入力されるR信号、G信号及びB信号がそれぞれ、積分回路51, 52, 53に与えられて、例えば1フレームの映像信号が出力される間といった一定期間、それぞれの色信号の信号レベル（即ち、各色信号を出力する同一画素数分の色信号の信号レベル）が加算されることによって積分される。又、積分回路51, 52のそれぞれで加算されたR信号及びG信号が比較回路54の入力端子a, bに与えられるとともに、積分回路52, 53のそれぞれで加算されたG信号及びB信号が比較回路54の入力端子b, aに与えられる。この比較回路54, 55では、それぞれの入力端子bに入力されるG信号を基準として

、R信号及びB信号の信号レベルを検出する。このように、G信号を基準としてR信号及びB信号の信号レベルを検出することが、撮像される被写体の色温度を検出することに相当する。

【0043】

又、ホワイトバランス調整回路6においては、初期状態設定回路4より送出されたR信号及びB信号が、オフセット変更回路61，62に入力される。又、オフセット変更回路61，62は、それぞれ、比較回路54，55より制御信号が与えられ、この制御信号に基づいて、R信号及びB信号に与えるオフセット電圧の値を変更する。即ち、撮影開始時や生産時などに初期設定を行った際の被写体とその色温度が異なる被写体を撮像したとき、積分回路51，52，53で加算したR信号、G信号及びB信号の信号レベルが変化する。

【0044】

この変化に伴い、R信号とG信号との信号レベルの差及びB信号とG信号との信号レベルの差が現れ、比較回路54，55よりそれぞれの信号レベルの差を表す制御信号が出力される。そして、オフセット変更回路61，62において、比較回路54，55より与えられる制御信号に基づいて、R信号及びB信号に与えるオフセット電圧の値を変更することで、撮像する被写体の色温度の変化に応じたホワイトバランス調整を行う。

【0045】

例えば、センサ部1で撮像された被写体の色温度が3600Kとなるときに、R信号、G信号及びB信号が図11のような関係になったとする。尚、図11はR信号、G信号及びB信号それぞれについて、照度と信号レベルの関係を示すグラフで、照度が対数関数となる片対数グラフである。又、R信号、G信号及びB信号は、それぞれ、出力回路14（図2）で温度補正が行われるため、図10のように、その傾きが等しくなる。しかしながら、色温度と波長の関係より、色温度の変化に応じて、同一の照度に対する各色信号の信号レベルが変化する。

【0046】

そして、各色信号の同一の照度における信号レベルの差が、R信号とG信号の間で ΔV_3 、G信号とB信号の間で ΔV_4 とすると、オフセット変更回路61，

62を動作させて、R信号及びB信号のそれぞれに与えるオフセット電圧の値が、 ΔV_3 、 ΔV_4 となる。このようにすることで、図11のように、R信号、G信号及びB信号が図11のグラフにおいて、その照度と信号レベルの関係が同一直線上となり、初期設定されたときの状態に戻る。このようにして、色温度によって変化する各色信号の信号レベルにオフセット電圧を与えることで、ホワイトバランス調整が施される。

【0047】

尚、上述したように、初期設定された状態が、各色信号の照度と信号レベルの関係が同一直線上でない場合でも、このようにホワイトバランス調整回路6が動作することによって、初期設定された状態に戻り、ホワイトバランス調整が施された状態となる。

【0048】

又、本実施形態において、センサ部の構成を図2のような構成としたが、映像信号やノイズ信号をサンプルホールドする回路が省略された構成のセンサ部でも構わない。又、映像信号やノイズ信号をサンプルホールドする回路についても、図2のような構成に限定されるものではない。又、垂直走査回路及び水平走査回路においても、行毎又は列毎に順次信号を与えるものとしたが、無作為に各画素に信号を与えるようなものでも構わない。

【0049】

又、温度補正回路について、図5のような非反転増幅回路で構成されたものに限定するものではなく、反転増幅回路や差動増幅回路で構成したものでも構わない。又、画素についても図6のような構成としたが、対数変換動作を行うことができる画素であればよく、図6のような構成の画素に限定されるものではない。

【0050】

更に、1フィールド分のR信号、G信号及びB信号を積分回路で積分するようにしたが、各色信号について同一画素分の信号レベルが積分することができるならば、数フィールド分の各色信号の信号レベルを積分するようにして、数フィールド毎にフィードバックするようにしても構わないし、又は、1フィールド分全ての色信号でなく、任意の画素より出力された各色信号の信号レベルを積分する

ようにしても構わない。又、センサ部が、赤色のカラーフィルタが設けられた1つの画素、青色のカラーフィルタが設けられた1つの画素、緑色のカラーフィルタが設けられた2つの画素を1組とした構成とされたとき、R信号及びB信号の信号レベルを積分した値を2倍として、各色信号の信号レベルを積分した回数を同等のものとするようにすることで実現できる。又、基準となる色信号をG信号としたが、他の色信号であるR信号及びB信号を基準となる色信号としても構わない。

【0051】

【発明の効果】

本発明の固体撮像装置によると、各色信号の信号レベルを比較することによって撮像している被写体の色温度を検出し、この検出した色温度に応じて各色信号に与えるオフセットレベルを変化させることでホワイトバランス調整を行うことができる。このように、各色信号の信号レベルの比較結果に基づいて、ホワイトバランス調整を行うことができるため、初期状態を設定した後でも、簡易で且つ確実にホワイトバランス調整を行うことができる。よって、常に各色信号の相関関係が初期状態で保持された状態となるので、常に色合いの良い高精細な画像を撮像することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の固体撮像装置の内部構成を示すブロック図。

【図2】図1の固体撮像装置内のセンサ部の内部構成を示すブロック回路図。

【図3】図2のセンサ部のバッファの内部構成を示す回路図。

【図4】図2のセンサ部の出力回路の内部構成を示すブロック図。

【図5】図4の出力回路の温度補正回路の内部構成を示す回路図。

【図6】図2のセンサ部の画素の構成を示す回路図。

【図7】図6の画素の動作を示すタイミングチャート。

【図8】図2のセンサ部の動作を示すタイミングチャート。

【図9】図1の固体撮像装置に設けられたRGB選択回路、初期状態設定回路、色温度検出回路及びホワイトバランス調整回路の内部構成を示すブロック図。

【図10】色信号の関係を示すグラフ。

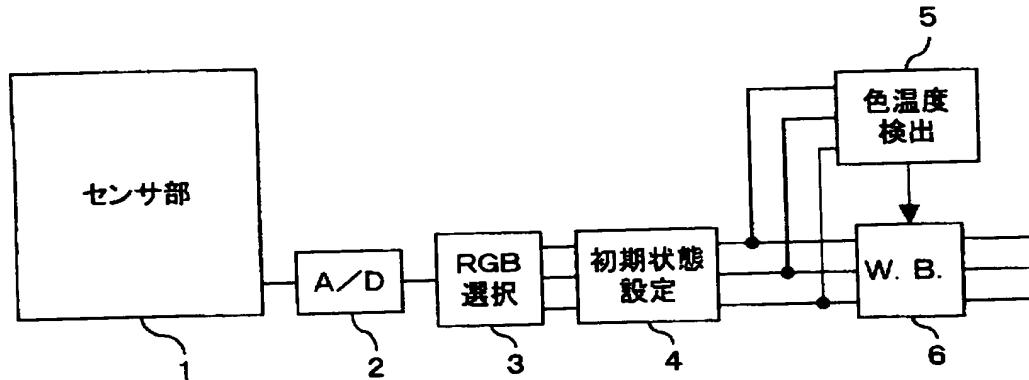
【図11】色信号の関係を示すグラフ。

【符号の説明】

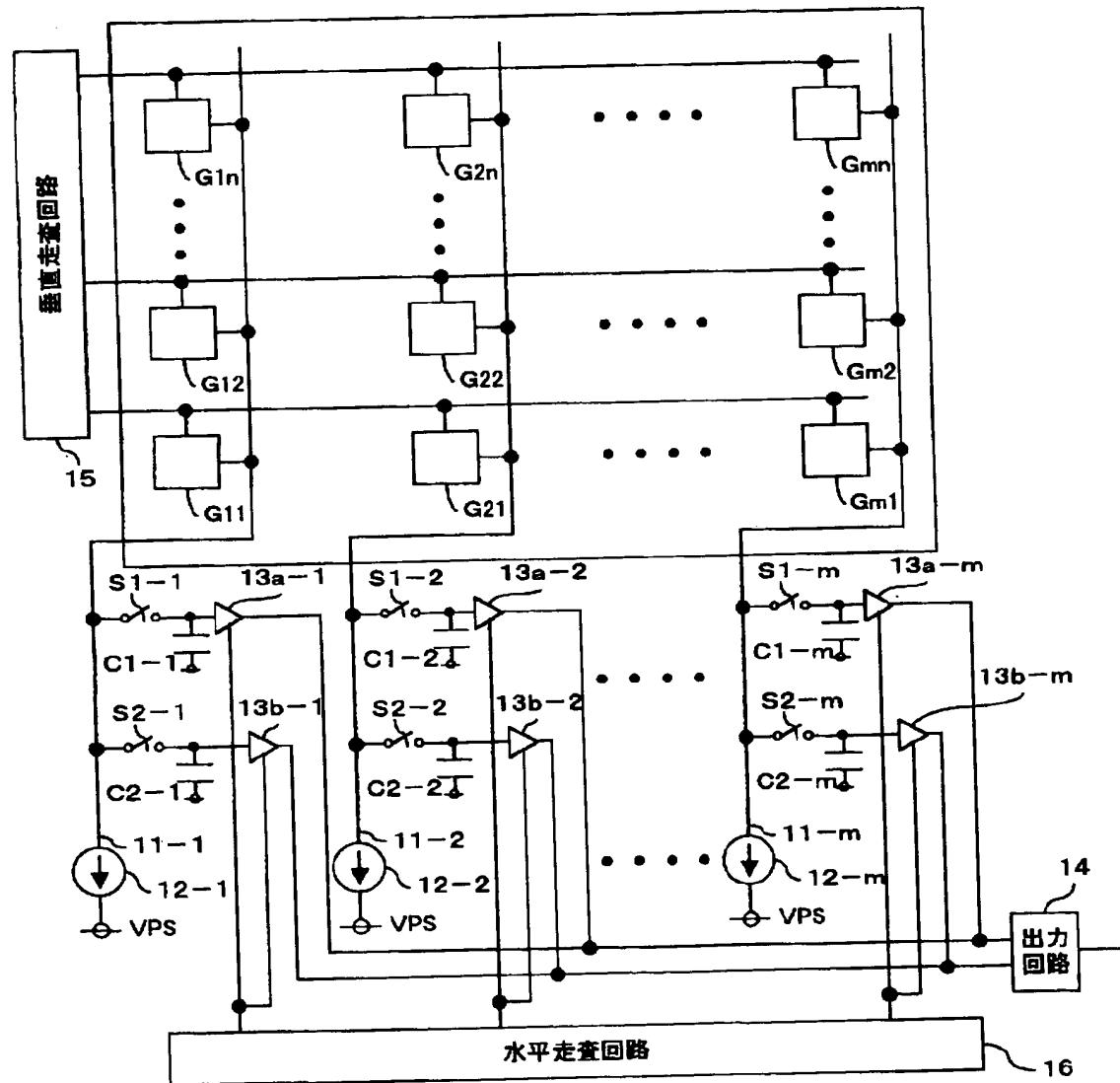
- 1 センサ部
- 2 A/D変換回路
- 3 R G B選択回路
- 4 初期状態設定回路
- 5 色温度検出回路
- 6 ホワイトバランス調整回路

【書類名】 図面

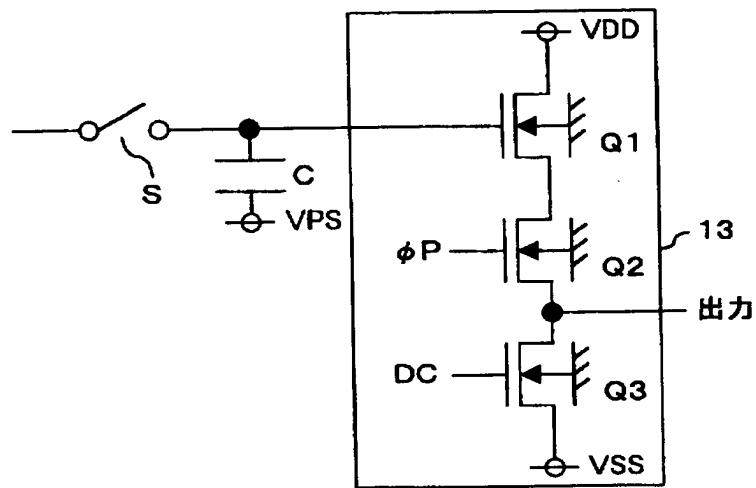
【図1】



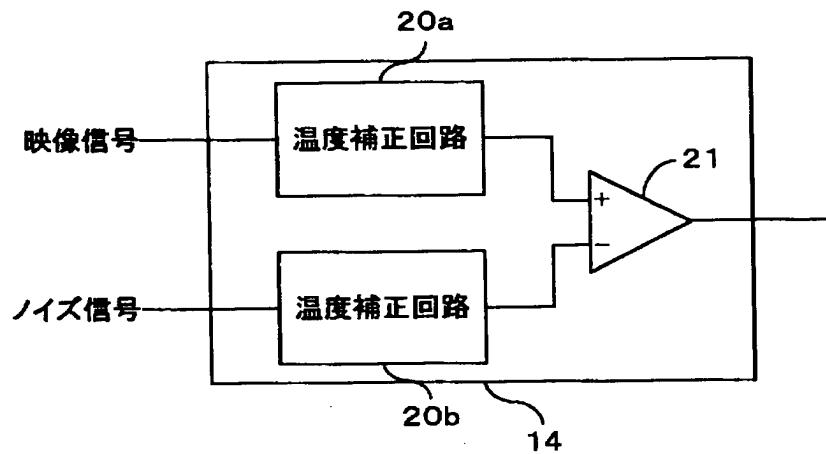
【図2】



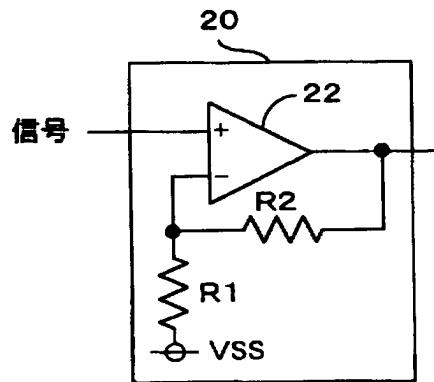
【図3】



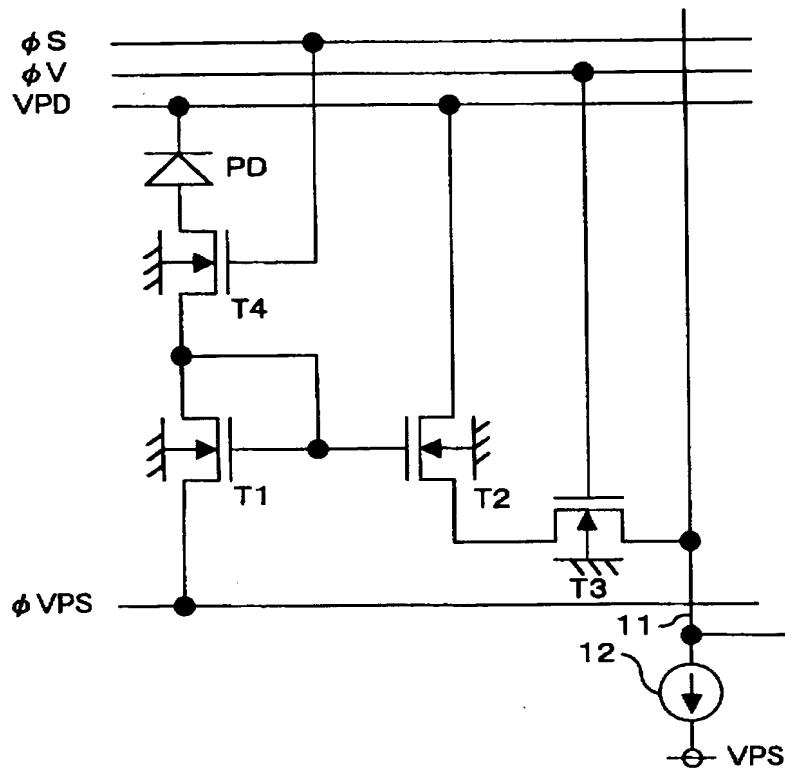
【図4】



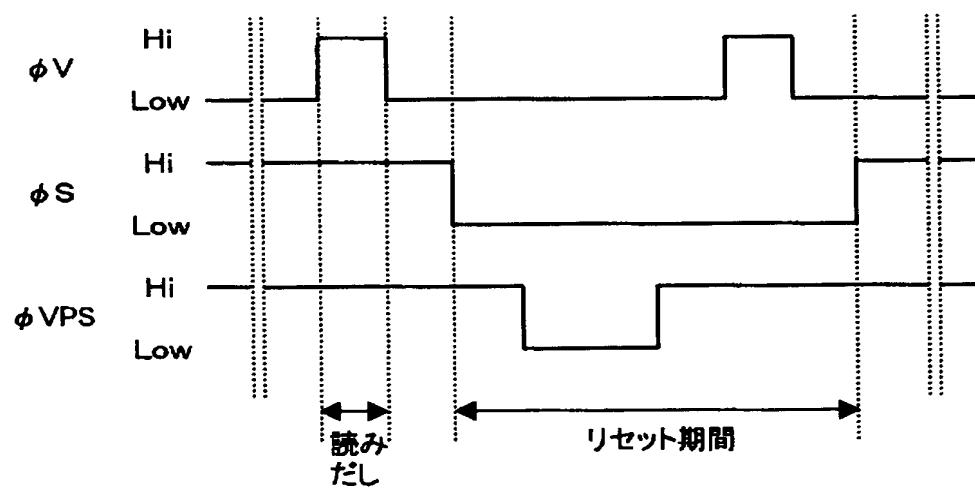
【図5】



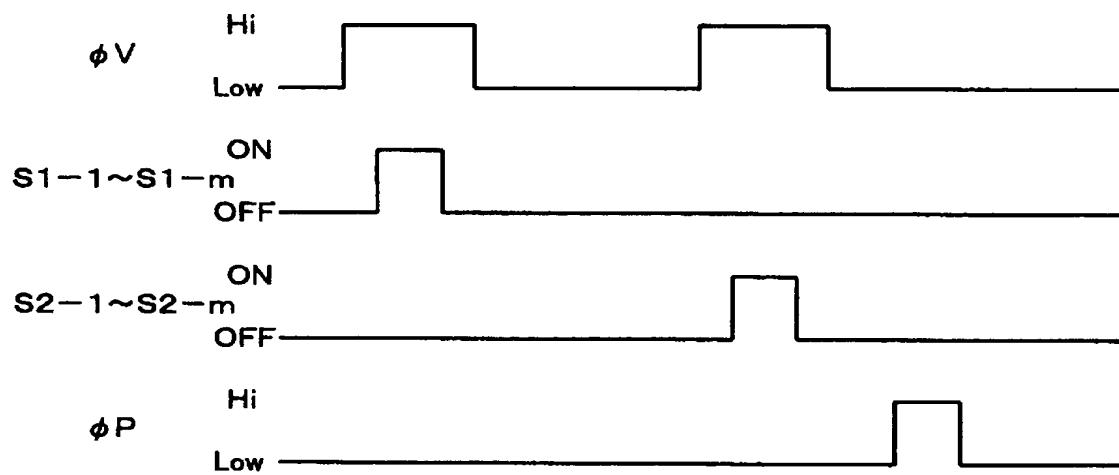
【図6】



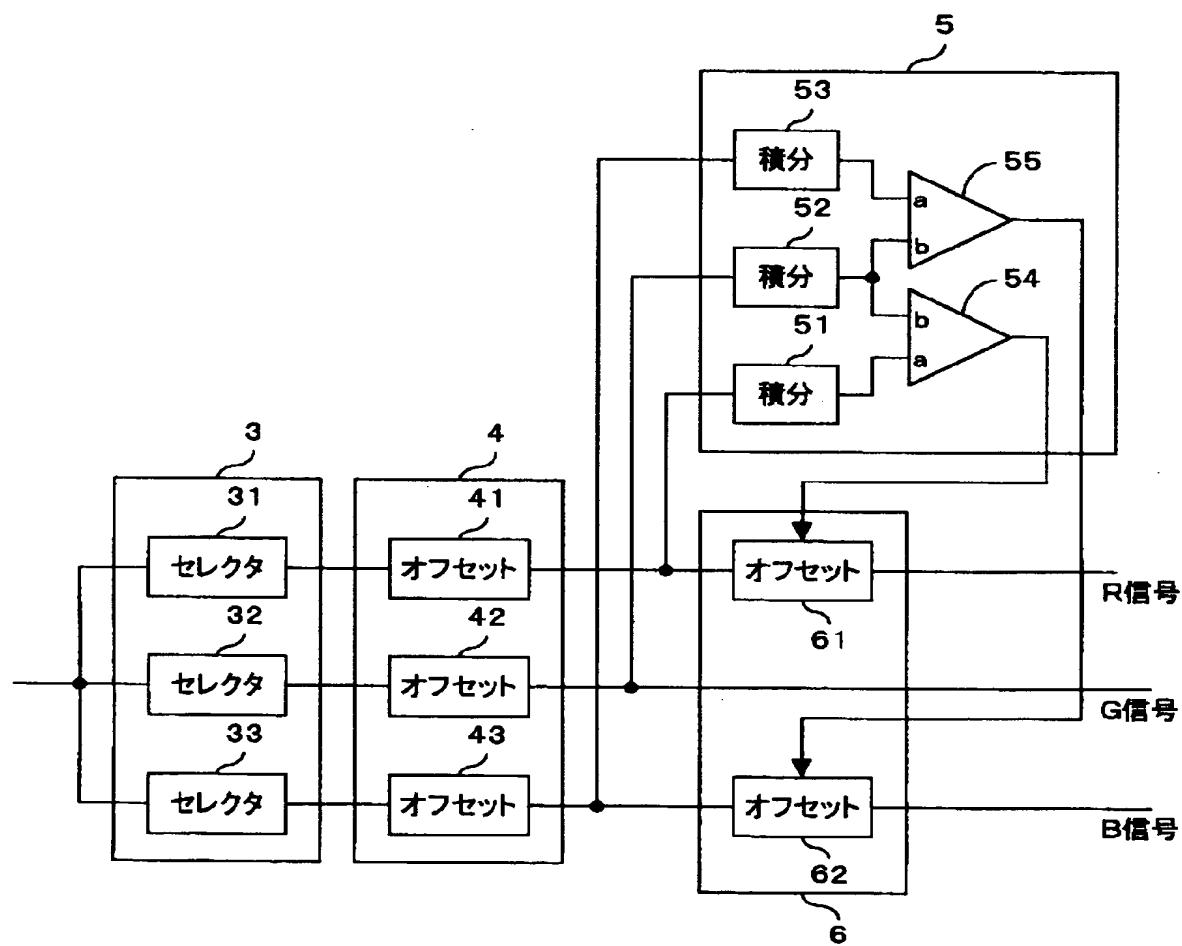
【図7】



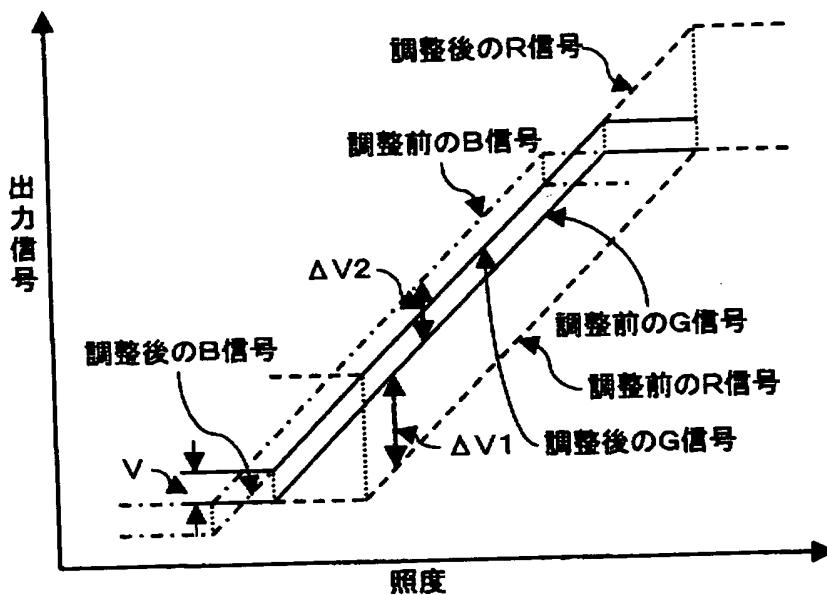
【図8】



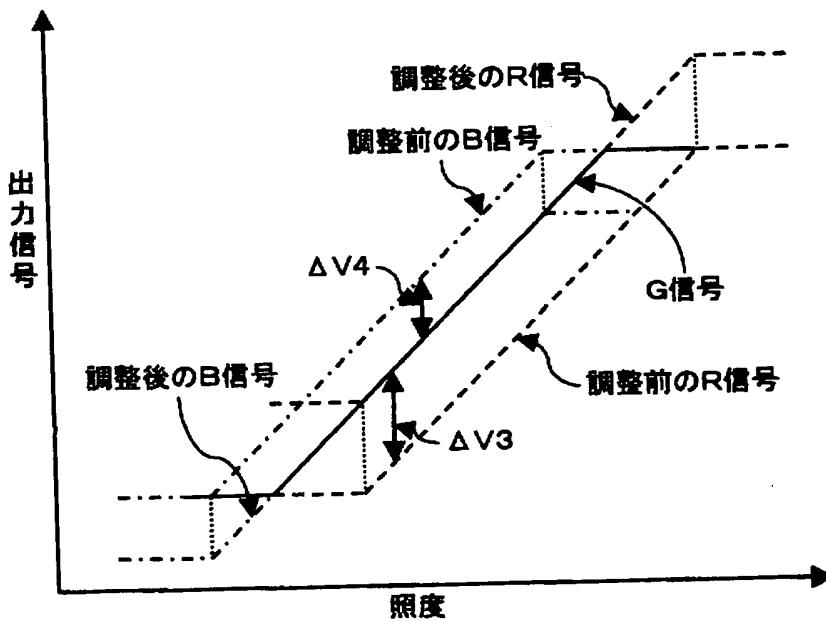
【図9】



【図10】



【図11】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 本発明は、入射光に対して対数変換された電気信号を出力する固体撮像装置において、それぞれの色信号のレベルを検出するとともに相対的に比較を行い、この比較結果に応じて各色信号のレベルを変化させることによってホワイトバランス調整を行う固体撮像装置を提供することを目的とする。

トバランス調整を行う固体撮像装置を提供することを目的とする。

【解決手段】 センサ部1より温度補正された映像信号をA/D変換回路2でデジタル信号に変換される。このデジタル信号に変換された映像信号がRGB選択回路3でR信号、G信号、B信号の各色信号に選択出力される。初期状態設定回路4において、R信号、G信号、B信号の各色信号にオフセット電圧を与えてホワイトバランス調整を行うことで初期設定が行われる。そして、実際に撮像を行うとき、この初期設定されたR信号、G信号、B信号より被写体の色温度を色温度検出回路5で検出し、検出した色温度に基づいて、ホワイトバランス調整回路6でR信号及びB信号にオフセット電圧を与えて、ホワイトバランス調整を施す。

【選択図】 図1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2000-187128
受付番号	50000779067
書類名	特許願
担当官	塩崎 博子 1606
作成日	平成12年 9月25日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】 000006079

【住所又は居所】 大阪府大阪市中央区安土町二丁目3番13号 大阪国際ビル

【氏名又は名称】 ミノルタ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100085501

【住所又は居所】 大阪府大阪市中央区天満橋京町2番6号 天満橋八千代ビル別館 佐野特許事務所

【氏名又は名称】 佐野 静夫

【代理人】

【識別番号】 100111811

【住所又は居所】 大阪府大阪市中央区天満橋京町2丁目6番 天満橋八千代ビル別館 佐野特許事務所

【氏名又は名称】 山田 茂樹

次頁無

出願人履歴情報

識別番号 [000006079]

1. 変更年月日 1994年 7月20日

[変更理由] 名称変更

住 所 大阪府大阪市中央区安土町二丁目3番13号 大阪国際ビル
氏 名 ミノルタ株式会社